



大泉橋戸公園水田で田植え体験！

～「橋戸田んぼ」の風景を復元した水田で小学生が稲作体験～

と き	平成26年6月13日(金) 午前9時～10時 橋戸小学校
	午前11時～12時 大泉第一小学校
と ころ	平成26年6月16日(月) 午前10時40分～12時 大泉北小学校
と ころ	練馬区立大泉橋戸公園(練馬区大泉町2-9-34)

13日(金)、16日(月)の2日間、練馬区立大泉橋戸公園内の水田で、周辺の小学校3校の児童が田植えを体験した。

水田は、「橋戸田んぼ」として親しまれた地域の風景の復元を望んだ周辺の小学校や地域団体の強い要望を受け、区が整備し実現した。管理運営は、地域団体の「橋戸水田自主管理会」が主体となり行っている。平成24年度の開園以来、毎年、周辺の小学校3校の児童が稲作を体験してきた。

田植えは、管理会があらかじめ園芸用ポットで育てておいた苗を、児童が田んぼに入って手で植えていく。「苗が倒れないようしっかり埋めてね」「足が抜けなくなったら、かかとを少し持ち上げると抜けるよ」など、管理会の方々からアドバイスを受けながら、子どもたちは慣れない泥の中での作業に奮闘した。田んぼから上がった子どもたちからは、「ぬるぬるして面白かった」「もう一回やりたい」と笑顔がこぼれた。

秋には稲刈り体験も行い、収穫したお米を味わう予定。



～田植えの様子～

【橋戸田んぼの稲作風景を小学生が再現！】

練馬区立大泉橋戸公園の「田んぼ」は、園内に残る弁天池の湧水を活用し、かつて白子川流域で行われていた水田を復元整備したもの。水田面積は230㎡で6枚の田んぼに分かれている。平成24年度から、周辺の大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校の児童が毎年稲作体験を行ってきた。今年は13日に橋戸小学校58人、大泉第一小学校60人、16日に大泉北小学校109人(いずれも5年生)の児童が田植えを行った。

子どもたちは靴下で田んぼに入り、苗が一行に並ぶよう目印に沿って植えていく。泥に足を踏み入れ「気持ち悪い」「こけそう」と動揺していた子どもたちも、田んぼから上がる頃には「土がチョコレートみたいだった」「もう一回やりたい」と目を輝かせ、全員が体験し終わった後に、2回3回と挑戦する子どもも見られた。水田の横を通りかかった年配の女性は、「声が聞こえたので、見に来てみました。私は東京出身なので、田植えの経験はありませんが、子どもたち、楽しそうですね」と話した。

【橋戸水田自主管理会とは】

同会は、大泉町近隣の三校(大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校)の児童に米作りの体験を通じ学校間の交流と地域コミュニティの醸成に寄与することを目的として、平成24年に結成された組織。児童への田植え体験指導をはじめ、除草や水量調整といった水田の全般的な維持管理を行っている。「橋戸の田んぼのことを子どもたちに少しでも知ってもらえれば」との思いで、種まきや田起こし、代かきを既に実施し、田植え体験に向けて準備を進めてきた。同会の会長は、「子どもたちの“楽しかった!”という言葉聞くのが、何よりの励みです」と語り、児童が田植えをする様子を、目を細めて眺めていた。



～田起こし～



～代かき～

【問い合わせ】